

兵庫教区における二つの差別事件を受け、この度、教区基幹運動推進委員

会主導のもと「差別を見逃さず、行動を取れる私になること」「差別に

同朋リーフレット発行 御同朋の社会をめざして

対する学びを深めることを目的とした「同朋リーフレット」が発行された。その制作意図を差別事件対応専門部会委員である棚原正智さんに伺った。

今でもあるかも知れませんが、私が小中学校の頃「教科書ガイド」という本がありました。大変良くできた参考書で、教科書の内容に沿って、これがあったら先生の話は聞かなくてもいいやと、当時の私は思っ

(二面へ続く)

「同朋リーフレット」活用について

たものでした。まあ、それで後々困るのですが、それを使っていたある時、理科の授業の休憩時間に黒板を消しに行ったところ先生の机の上に何か大きな本が置いてありました。



皆さんは、仏教讃歌を何曲御存じですか？◆

日本にお

教区だより

6月・7月

6月

3(金)	同朋講座講師団研修会	10:30
4(土)	第一土曜仏教講座(藤井寿昭師 奈良教区 仏青連盟指導講師)	13:30
6(月)	同朋講座講師団研修会	10:30
7(火)	布教団平成23年度総会並びに研修会 別院仏婦定例法座(棚原正智師 神姫組)	10:30 13:30
9(木)	親鸞聖人750回大遠忌記念「少年教化指導者のつとめ」 本山 教区会常備会	13:30 13:30
10(金)	蓮華会理事会	13:30
12(日)	中仏集い会	10:00
14(火)	清風会雅楽練習	19:00
15(水)	神戸別院永代経法要(若林真人師 大阪教区 16日まで)	13:30
19(日)	第16期連研修了者大会 神戸別院	10:30
21(火)	近同推総会 本山	
22(水)	十方会総会	15:00
23(木)	平成23年度兵庫教区仏教婦人会連盟大会 いたみホール	
24(金)	第149回臨時教区会	10:30
26(日)	門推平成23年度総会並びに第51回研修会	10:30
28(火)	組長・副組長・組相談員等合同研修会(29日まで) ホテル日航姫路	13:30
29(水)	第13回全国布教使大会(30日まで) 本山	

7月

2(土)	第一土曜仏教講座(九條孝義師 滋賀教区 元小・中学校校長)	13:30
3(日)	仏壮ブロック別研修会 東播ブロック	
5(火)	平成23年度兵庫教区門信徒会運動研修協議会	13:00
4(月)	兵庫聖典研鑽会	13:30
7(木)	別院仏婦定例法座(松田義量師 赤穂北組)	13:30
8(金)	布教団基幹運動研修会	13:30
10(日)	第26回若婦人のつとめ	
12(火)	清風会雅楽練習	19:00
15(金)	別院常例法座(16日まで)	13:30
18(月)	仏壮ブロック別研修会 姫路・西播ブロック	イーグレひめじ
19(火)	第3連区布教使研修会(20日まで)	八幡別院
22(金)	総代会一泊研修会(23日まで)	13:30
24(日)	仏壮ブロック別研修会 丹波・但馬ブロック	城崎組信楽寺
25(月)	第1回少年を対象とした法要行事 (教区少年連盟サマースクール 26日まで)	本山
26(火)	布教団第3回各種法座出講予定者事前学習会	10:30
27(水)	仏婦単位会長研修	
31(日)	仏壮ブロック別研修会 阪神・神戸ブロック	

教区より大遠忌のご勝縁

いよいよ始まった『親鸞聖人七五〇回大遠忌法要』
来月一月十六日の御正當法要までの七期中、既に一期・二期が終わり、兵庫教区からは二十六団体、計一万三百名を超える参拝者が、親鸞聖人御真影様へご挨拶にと参られた。
本願寺では大遠忌法要



加古川組参拝団



にぎわい(縁まつり)
(ご縁まちマルシェ)

この五十年に一度のご勝縁にめぐり遇えたこと、末法の世にお念仏をお伝えくださった親鸞聖人の恩徳を讃える中で、我が身を振り返り、祖・師とともに法を語り合うこの度の大法要。
一人でも多くの方が、このご勝縁にご参拝されることを念じております。
既に参拝の組は次の通り
【二期(四月)】
◆阪神北組一班◆姫路東組◆出石組◆城崎組◆姫路南組◆氷上東組◆朋友会◆加古川組一班◆阪神

敬 弔

左記の方がご逝去されましたので謹んで敬弔の意を表します
瀬川 縁(赤穂北組称念寺前々坊守) 平成二十三年四月九日九十八歳
脇坂弘道(姫路中組光源寺前住職) 平成二十三年四月十日八十歳
田路九護(姫路東組西福寺住職) 平成二十三年四月十四日百二歳
中川實晃(宍粟組明證寺前住職) 平成二十三年五月二日九十二歳
辻 芳子(揖龍西組専龍寺前坊守) 平成二十三年五月十二日八十六歳
五月十七日現在
【敬称略】

五月十七日現在

御同朋の社会をめざして

「御同朋の社会」とは、いのちの尊さにめざめる一人ひとりが、それぞれのちがいを尊重し、ともにかがやくことのできる社会です。

同朋リーフレット



現生正定聚

いま まさに 仏の智慧を得た なかま

兵庫教区基幹運動推進委員会

皆さんは、仏教讃歌を何曲御存じですか？◆
日本における仏教讃歌の起源は、寺院での子ども会、つまり日曜学校であると言われております。明治時代に各寺院の日曜学校において、「讃仏歌」という形で多く作られました。この頃に本願寺からも「讃仏歌集・児童用」が発行されました◆これらの「讃仏歌」の中で、今日でも親しまれているものとして「報恩讃の歌」「み仏にいだかれて」「恩徳讃」などがあります。大正時代には「花まつり」が開催され、年々新しい曲が発表されました。「真念堂歌」もこの時に作られました◆私は音楽というものは、人の心を動かすものだと信じています。仏教讃歌は言葉もわかりやすくなっており、メロディーも歌いやすいものがほとんどです◆素敵なメロディーにのって阿弥陀様のみ教えが広まっていけるを願っています。

神戸東組 正寿寺 棘麻衣子



同朋運動啓発ポスター

「差別はダメ、無くさないといけません」という答えが全員判っているのに、現実はずうはなっていないのです。「では、私は、どうすれば良いのか？」というのが、今回教区で制作したリーフレットの出発点でした。

「私」ということを大切にしたのです。どういうことかと言いますと、まず「差別事件に対する取り扱い説明書」にはしたくないと言うのが、一つです。

この様な方針で進めて行けば差別事件は決着するといふようなリーフレットでは、差別事件の解決にはなるかも知れませんが、本当の意味での差別解消になるのではなく、差別を覆い隠すようなことになるのではとの危惧があったからです。

リーフレットにも出てきますが「私の立場は、何か」ということです。

「加害者」「被害者」「傍観者」と三つに分類されると思いますが、多くの人（私を含めて）は、差別発言もしていないし、差別を被った訳でもない、だから傍観者といふ言い方が無いと思いがちになります。ところが、それが済ましてしまつて良いのでしょうか。

ハンセン病問題解決へ向けて

～京都で交流集会～

四月十二日から三日間に渡り、京都で『真宗大谷派ハンセン病問題全国交流集会』が開かれた。二年に一度、東本願寺にて開催される当交流会は今回で八回を数え、全国から、三百名の参加者が集った。

交流会集会に参加した上谷良昭氏（神戸中組報恩寺）は「全国より元患者、僧侶、サポーター（支援者）等が集つて、「久しぶり、会えてよかった」「来ていると思っていたから、ずうっと捜していたの」などと、あちこちで、皆が声をかけ合う姿に、みんな一つに繋がっていると感じた。

集った皆さんが元気に、そして明るいのはこの交流会のおかげ、継続して続けられている取り組みの結果が現れているのだと確信した」と述べた。

また、『願いから動きへー考えてみよう』「ふるさと問題」——と題して行われた分科会については「弁護士である徳田晴之氏の紹介された光明園の中山秋夫氏の川柳『もういいかい、骨になつてもまあだだよ』という、いのちを終えて骨になつても『ふるさと』の土（墓）に入れない悲痛の川柳に、自分のいる場所、自分に何が出来たのか？との思いが募った」と語った。



（東本願寺）前にて

（真宗本願寺）前にて

年連盟十万円▽出平茂三千円▽実業組教専寺大西耕雲五万円▽流郷重行一千円▽岡山北組當林寺本田義紹一万円▽赤堀肇五千円▽岡山北組當林寺三千円▽岡山北組當林寺三万円▽阿曾澄子一万八千円▽播磨東組門福寺六万六千円▽多紀組浄福寺四千六百円▽多紀組金照寺二万五千五百九十二円▽淡路組萬行寺門徒中二万六千九百二十二円▽阪神北組願宗寺住職衆徒門徒中三万五千五百円▽阪神西組乗誓寺三万二千円▽（学）西光学園西光幼稚園十万円▽阪神西組西光寺十万円▽揖龍西組専龍寺仏教壮年会五万円▽阪神北組勝福寺門信徒一同三十四万二千二百円▽阪神北組勝福寺仏教婦人会五万円▽神戸湊組顕證寺一万円▽神戸戸別院仏教壮年会十万円▽阪神南組正光寺仏教婦人会二万円

東日本大震災 義援金①

千二百万円超す（五月十二日現在）
千二百七十七万七千七百五十八円

各方面から教務所へ届けられたものを掲載させて頂き、紙面をもって御礼申しあげます（受付順）

▽阪神東組最光寺門徒五万円▽杉本もなみ・みのり五千円▽神戸湊組顕證寺二万円▽阪神東組西正寺二十万円▽赤穂北組五万円▽赤穂北組浄蓮寺一万円▽神戸湊組善照寺仏教婦人会二万円▽神戸湊組善照寺門徒一同二万六千六百円▽神戸湊組善照寺三万円▽高原寺村上孟彦五万円▽善照寺十万円▽多紀組金剛寺五万円▽阪神東組総代会四万四千五百四十円▽元誓寺一万円▽了福寺一万円▽宗教法入南宗寺三万円▽高砂組蓮教寺三万円▽法性寺門徒一同五万円▽法性寺五万円▽妙正寺三万円▽姫路中組安楽寺四万円▽教蓮寺十万円▽光遍寺三万円▽後藤善成十万円▽後藤善史五万円▽後藤勝史五万円▽後藤佳与子十

円▽浄円寺一万円▽後藤由紀子五万円▽浄円寺仏教婦人会二万円▽善立寺門徒一同十万円▽善立寺十万円▽法誓寺五万円▽揖龍西組德行寺三万円▽北摂組西方寺護持会三十万円▽浄福寺十万円▽杉本良子一万円▽高砂組蓮教寺仏教婦人会一万円▽善養寺二万円▽善立寺門徒小西照子一万五千円▽善立寺門徒三木廣五千円▽神戸湊組宝球寺門徒一同十万円▽揖龍東組五万円▽称名寺五万円▽最徳寺五万円▽阪神北組長宣寺門徒一同一万円▽浄宗寺十万円▽多紀組金照寺畑岡俊城五万円▽多紀組光明寺浅井晃和一万円▽多紀組三万円▽朝来組西方寺一万円▽秋田省吾一万円▽浄蓮寺門徒一同十八万三千二百八十円▽潮音寺一万円▽潮音寺仏教婦人会一万円▽善立寺門徒橋本道生五千円▽善立寺門徒浅井政和五千円▽

組法台寺五万円▽播磨東組報恩寺十万円▽氷上西組住職三万円▽氷上西組住職三万円▽神戸湊組報雲寺五万円▽揖龍東組蓮生寺三万円▽北摂組興徳寺門徒一同二万円▽北摂組正行寺門徒一同三万円▽阪神東組浄宗寺門徒一同七万三千四百六十七円▽阪神北組浄福寺門徒講五万五千円▽高砂組西立寺一万円▽阪神北組高原寺村上孟彦十万円▽多紀組正福寺石橋一雄三千円▽阪神北組長宣寺十万円▽姫路南組善正寺一万円▽佐用組三万円▽岡山北組西光寺岡部義遵一万円▽教務所職員一同五十万円▽北摂組正光寺二十万円▽養父組金光寺仏教婦人会一万円▽高砂組金照寺五万円▽阪神東組称名寺仏教若婦人会二万円▽姫路中組光養寺五万円▽朝来組金藏寺一万円▽朝来組唯念寺一万円▽朝来組淨願寺二万円▽朝来組如来寺三万円▽朝来組善證寺一万円▽朝来組勝賢寺二万円▽朝来組西方寺一万円▽朝来組光明寺一万円▽朝来組教蓮寺一万円▽

教区仏青が街頭募金

五月十五日（日）、午後五時から約二時間に渡り、兵庫教区仏教青年連盟会員が『東日本大震災』義援金の街頭募金活動を行った。

募金活動は、多くの人で賑わう休日の夕方に、神戸駅前と、元町駅前で行われ、合計で二万六千二百円の募金が集った。

集った募金は、あしなが育英会を通して、東日本大震災・津波遺児の支援に当てられる。

今回の募金活動は、教区仏青としては初めての試みであり、活動と呼びかけた会員は募金活動の



募金活動を行う仏青会員（元町駅前）

経緯について、「今回の大震災をうけて、何か自分のできることは無いだろうかという思いが元々あった。そこで、皆でできることをやろうということになり、今回の募金活動を行なうことになった」と話した。

また、実際に活動を終えて、「最初は緊張して、大きな声が出なかった。しかし、最初の一人が募金してくれたことで元氣付けられ、その後は、大きな声が出るようになった。一度でも声が出ると、後は声が出るようになっていった。最初に募金をしてくれた一人が有難かった」と語り、「震災から二ヶ月以上が経過したが、被災地の現状は依然厳しいまま、まだまだ多くの支援が必要とされている。世間で震災の衝撃・記憶が薄れていくこれからこそ、様々な支援活動が必要になってくる。まだまだ、この様な活動を行っていききたい。また、仏青だけに限らず、もっと色々な場で、活動を広げていきたい」と思いを述べた。

（五面続き）

泥の撤去作業でしたが、既にある程度片付けられて、泥をスコップで土嚢袋に詰めるという簡単な作業で昼前には作業は終了しました。

一緒に作業していた学生に話を聞いてみると、まだ学校の授業が開始できないので参加したと言っていました。

センターの中でも若いボランティアの参加者を多く見かけ、災害時には



撤去された畳や瓦礫（塩釜市）

行動力のある若い力が、要になるのだと思いました。また自分と同じように何か力になりたいと考えている人がたくさんいるのだと思うと何か心強く感じました。

午後からは沿岸部の塩釜市のボランティアセンターに向かい、私たちは午前中から作業している場所の増員という形で参加したのですが、現場に到着した時は丁度休憩中

で参加者の方はいっぱい疲れ

ている様子でした。現場は古い長屋のような建物で、一階が全

て水に浸かってしまい部屋中に汚泥が入り込んでかなり酷い状況でした。作業は散

乱した畳

の撤去で、水に浸かった畳は想像以上に重く、大人が四〜六人くらいでないと運べないようなものでした。

港が近くのせいか重油も混じっており、様々な臭いがする中での作業は厳しいものでした。ガラスの破片等も散らばっており、汚泥でわかりにくいため危険も伴う作業で、実際に軍手で作業している人が指を負傷するというトラブルがありました。

畳を撤去し終わるところで時間になり作業終了、大変な作業でしたが住人の方からお茶などの暖かい差し入れをいただいたり、とても喜んでくれたりと満足感のあるものでした。

今回のボランティア活動は一日だけで、実際にその日に出来る作業はごくわずか、長い目で支援が必要だということを痛感しました。

与えられる仕事も地域によつて様々で、どんな仕事でも与えられた仕事を快く受け入れる姿勢も大事だと思いました。

今回の被災地視察、ボランティア活動がこれからの活動の指針となり、支援が継続してできるような体制になるよう、私自身も今回だけに留まらず出来る限り協力していきたいです。

今初、私はただ被災地で活動がしたいという安易な気持ちだけでしたが、実際にボランティアの活動には多くの責任が伴うということが今回の経験で知ることができました。これから季節が変わり、被災地もこれまでとは別の問題が発生してくることでしょう。そうした現状を見ながら、自分自身に何が出来るのか、被災地で何が必要とされているかをよく考えた上で行動をする必要があると思います。

東日本大震災・教区第二次現地視察報告

四月二十五日から二十八日にかけて、青僧会有志と教務所職員が、宮城・福島両県にて、東日本大震災の第二次現地視察・ボランティア活動を行った。

以下は、福島県を中心に活動をした職員の報告である。

【郡山市】

福島県内陸部の郡山市は、新幹線も運行し、商店・ガソリンスタンド等も通常営業をしており、一見震災の被害・影響は少ない様に見える。

しかし実際は、市内を巡ると塀の倒壊、壁の崩落がある建物も多く、JR在来線は臨時ダイヤで運行、節電のために駅のエスカレーターは止められており、避難所となつて

いる大型多目的ホール「ビッグパレットふくしま」には未だ千数百名の方々が避難されていた。また、震

テレビは放射線量を知らせる（郡山市）



災で一時的に他県等へ避難した人が、無断欠勤を理由に職場を解雇されて失業者が非常に増えているそう、街の経済活動に暗い影を落としている。

さらに、テレビ・ラジオでは定期的に、県内各地の放射線量測定値の報告がされており、放射性物質の飛散という見えな

い恐怖に晒されている。郡山市在住のU氏は、「会社から、いわき方面等、原発付近にはあまり行かないように言われている」

「放射能汚染のため、極力外出は避けており、休日（乳児）には水道水は飲ませていない。必ずペットボトルの水を使うよう心がけている」と話した。

何より「他県に避難した人で、原発事故による差別を受けている人がいることを何とかして欲しい」と語ったことが胸を痛めた。

【南相馬市】市内中心部（原町：原発三十Km圏内）は、コン

ビニ等、開いている商店もあり、車の通行量もあつたが、六号線を南下し中心部を離れると人の気配が無くなり、原発二十Km圏内警戒区域付近は異常な雰囲気となる。



置いていかれた犬（原発20Km圏境界のドライブイン）

に閉店。

遺体安置所（南相馬市スポーツセンター）では震災から五十日近く経つても遺体が運ばれており、正信僑の勤行中にも、遺体が運ばれて来た。

この日は八名が安置されていて、内身元が判明していた方は三名であった。

原発二十Km検問所の隣にあるドライブインの店主に話を聞くと「自分と他数人以外は皆避難してしまつた。自分は避難するつもりは無い」「原発事故までは、いつも休憩

に閉店。

センターでは道具の貸し出しがりましたが、数には限りがあるので、極力自分自身で食糧や装備を整え、現地の迷惑になることのないようにする、という自己完結の姿勢がボランティアの基本になります。

当初、私はただ被災地で活動がしたいという安易な気持ちだけでしたが、実際にボランティアの活動には多くの責任が伴うということが今回の経験で知ることができました。これから季節が変わり、被災地もこれまでとは別の問題が発生してくることでしょう。そうした現状を見ながら、自分自身に何が出来るのか、被災地で何が必要とされているかをよく考えた上で行動をする必要があると思います。

今回の被災地視察、ボランティア活動がこれからの活動の指針となり、支援が継続してできるような体制になるよう、私自身も今回だけに留まらず出来る限り協力していきたいです。

今回の被災地視察、ボランティア活動がこれからの活動の指針となり、支援が継続してできるような体制になるよう、私自身も今回だけに留まらず出来る限り協力していきたいです。

今回の被災地視察、ボランティア活動がこれからの活動の指針となり、支援が継続してできるような体制になるよう、私自身も今回だけに留まらず出来る限り協力していきたいです。

今回の被災地視察、ボランティア活動がこれからの活動の指針となり、支援が継続してできるような体制になるよう、私自身も今回だけに留まらず出来る限り協力していきたいです。

今回の被災地視察、ボランティア活動がこれからの活動の指針となり、支援が継続してできるような体制になるよう、私自身も今回だけに留まらず出来る限り協力していきたいです。

のトラックで一杯のドライブインだった。今は誰も来ない。収入は途絶えた。国・電力会社・市からは何の保障もない「二十Km、三十Kmの区切、検問など意味は無く、抜け道はいくらでもある」「百万円をくれるというが、たつたそれだけで何が出るか。収入は無いが、今までの営業の請求は次々と来る、支払わないわけにはいかない。これからどうすればいいのか」と怒りを語った。

【相馬市】

相馬市は夜でも店が開いており、コンビニを始めてとして、ファミリーレストラン、ファーストフード店、牛丼チェーン、レンタルビデオ屋等、一通りの店舗が営業を行っていた。しかし、二十四時間営業は行っておらず、どの店も夜九時には閉店するようであった。

相馬市の店には、どこにでもボランティアの姿があり、拠点を相馬市の道の駅にしているとのことだった。

「南相馬市鹿島区災害ボランティアセンター職員佐藤氏聞き取りより」

ボランティアセンターについて

ボランティアセンター立ち上げ時、曹洞宗の米澤氏という僧侶に大変お世話になった。

社会福祉協議会の職員も、今回のような状況は始めてでノウハウが無く、災害ボランティアセンターの立ち上げがうまく行えない所に、運営方法の指示や、具体的なボランティア活動の進め方、瓦礫の

撤去だけでなく、地域の寺院を利用した託寺（託児）ボランティアのアイデア等、様々な面での支援をいただいた。

南相馬市には、市街中心部の原町にあるボランティアセンターと、この鹿島区ボランティアセンターの二つがある。（市町村合併により、近隣に二つのセンターが存在する事になったが、情報の共有、連携は十分ではない）



ボランティアセンター入り口（南相馬市鹿島区）

原町は三十Km屋内退避圏（四月二十六日現在）のため、瓦礫や泥の撤去作業は行えないのだが、そちらの方にばかり人が集ってしまう。（ニーズが無ければ集まったボランティアは待機することになる）※近々、撤去作業が開始されるとのこと

鹿島区は三十Km圏には入っておらず、瓦礫撤去等、人手が必要な作業があるにもかかわらず当初は人が集まらなかった。

ボランティアは、どんな来て欲しい。しかし、一斉に沢山来て一斉に帰るより、続けて来てくれる人の方がより有難い。（来ないよりは有難いが）例えば、百人が一度に来て一週間作業して帰るより、その百人を十班に分けて、其々が一週間ずつローテーションで来てもらう方が有り難い。

皆がバラバラに避難している為、地域住人に直接会ってニーズを聞くことができない。

物一つ片付けるにも、要・不要の判断がボランティアでは出来ない為、

作業時には必ず家主が立ち会う必要がある（農家だと、肥料関係の要・不要の判断など）

危険家屋の判定が済まない限り、ボランティアを派遣できないのだが、余りにも被害が広域過ぎて、住宅診断が間に合わない。四月二十六日現在、鹿島区はボランティアで一名だけ住宅診断が出来る専門家が来ているが、なかなか進まない（二日一件程度）

ホテルは営業しているが、団体、ボランティア、建設業関係者の宿泊で埋まっている。おもてなしの心が強い地域なので、泊まる場所が無い人がいるのが心苦しい。

四月二十六日現在、瓦礫撤去・託寺（託児）・遺留物の洗浄がメインの活動となっている。

今後のニーズは、指定されたゴミ捨て場への瓦礫の運搬が増えるだろう。主に、自力で行えない人、お金が無い人、高齢者、障がい者をメインに行う。ただ、業者との兼ね合いがあり、瓦礫撤去等は



集めたゴミ、汚泥、ワラ

あまり積極的に行えず、非常に難しい。現状は、センターに相談に来た人の相談にのる形で行っている。

ボランティアの作業内容は、必ず社会福祉協議会が受けて、判断することになっている。難しいところだが、ここまではボランティアがやる、という線を引く必要が有る。

例えば、浸水した家屋の畳の撤去・泥の除去は行うが、床下に撒く消石灰の撒布は自分で行って下さい、ということなど。今後必要な支援は、資・

地域の被害状況について

みちのく球場という野球場があるが、付近の人は皆そこに逃げた。

しかし、一階、グラウンドに逃げた人は皆亡くなり、二階に逃げた人の数人だけが助かった。グラウンドには数百体の遺体が渦巻いていた。

鹿島小学校の道路を挟んで手前まで津波が来たが、何とか小学校は被害を免れた。現在は壊滅した地区の小学生が皆そこに通っている。

漁港の被害が甚大だが、原発三十Km圏に入るため、遺体搜索、瓦礫撤去等が進まなかった。

原発三十Km圏の壁があ



グラウンドで沢山亡くなった

り、それはあまりにも大きい。ボランティア活動も、その壁で区切られた中では行えない。

視察・ボランティアを終えて

今回、震災発生から五十日近く経過しての被災地入りであったが、未だ瓦礫撤去は進まず、新たな遺体も見つかっており、目を覆いたくなるような被災地の惨状は震災発生当初のままであった。

泥、瓦礫撤去を手伝っても、悲しいほど微少な

成果しか上がらない現実。震災、津波に加え、放射性物質による汚染、風評被害に苦しむ人々を前に、話を聞く事しかできない自分。私の情けない有り様を痛感させられた視察・ボランティアで

あった。

だがしかし、悲しいほど微少であっても、また話を聞くだけでも、行動する事は無意味ではない。少なくとも、南相馬は、今、多くのボランティアを必要としている。そして、多くの人々の支援を必要としている。

ボランティアセンターでの取材中、佐藤氏が、ボランティアに対して三つの感謝があると話してくださいました。

◆一つ、決して安全とは言えない南相馬に入ってきてもらったこと◆二つ、地元の人間に代わって汗を流してくれていること◆三つ、ボランティアで入ることで、風評被害を軽減してくれていること。

そして最後に佐藤氏は「南相馬には現在、沢山の笑顔、夢、感動が生まれています」と力強く語った。

私なら諦めるであろう惨状、家族・友人を失い、家や思い出が破壊され、放射性物質による汚染があるにもかかわらず、故郷に戻り、家を直し、再

び家族とこの地に住もうと行動を開始している人々がいること、そして、その人々の強さ、人間の強さに驚きを感じた。町は、必ず復興するだろう。

最後に、仙台・石巻方面でのボランティアに参加した青僧会会員の手記を乗せる。

災害ボランティアを経験して

【神明組真宗寺 宮里悠児】

東日本大震災のニュースをはじめて見たとき、地震の規模の大きさ、津波の勢いに言葉を失いました。

私も十六年前に神戸で大きな震災を経験し、被害は軽い方でしたが、水道やガス等のライフラインが断たれた生活、今まで経験したことのない事態に不安を抱えて生活していたのを今でも覚えています。

大きな地震を経験した人間として何か助けになるようなことがしたいと思いましたが、なかなか行動に移すことが出来ま



石巻市立門脇中学校（861名が避難 ※4月26日現在）

せんでした。

四月に入り、ボランティアの受け入れが整いつつある中、神戸別院から支援活動に向けての被災地の視察、現地でのボランティア活動の誘いをいただきました。今までボランティア経験の無い私でしたが、一人でも多くの支援が必要と思い参加を決めました。また、私が所属している青年僧侶の会の布瑠裕之会長や別院の職員の方も一緒という

こともあり、安心して臨むことができました。

一日目は避難所の視察、

津波で大きな被害を受けた寺院の慰問を行いました。夕方には拠点の仙台別院に到着し、すでに北海道、富山など他教区からのボランティアの方達がその日の活動報告、次の日の活動の意見交換などのミーティングがされていました。

二日目に私と布瑠会長は多賀城市のボランティアセンターに向かうように言われ、その職員から仕事をもらうという形でした。

私たちの仕事は近所のアパートで外に溜まった